

3.41 系統から60系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
41	鶴見駅西口	東寺尾5丁目、内路、菊名駅前、大倉山駅前、太尾西住宅、新羽駅、新開橋	川向町折返場	港北		B	深夜バス運行 太尾西住宅経由
	鶴見駅西口	東寺尾5丁目、内路、菊名駅前、港北警察署前	新横浜駅前	港北		B	鶴見駅西口～大豆戸交差点間は頻度A
	新横浜駅前	大倉山駅前、下町会館前、新羽駅、梅田橋	中山駅前	港北 緑		C	下町会館前経由
	新横浜駅前	大倉山駅前、太尾西住宅、新羽駅	川向町折返場	港北		C	太尾西住宅経由
	新横浜駅前	太尾新道、太尾西住宅	新羽駅	港北		C	休日運休 太尾西住宅経由
	中山駅前	佐江戸、梅田橋、水神前	川向町折返場	緑		C	
	中山駅前	梅田橋、新羽駅、太尾西住宅、大倉山駅前、新横浜駅前、又口橋、小机駅前	川向町折返場	緑		DC	太尾西住宅経由
	新横浜駅前	又口橋、小机駅前	川向町折返場	港北		IC	
41系統解説	9系統と同様に全線を通して走るバスはありません。以前は一日一往復ではありますが全線(鶴見駅西口～中山駅前)を走るバスがありました。緑営業所の担当で、そのためだけに緑営業所では方向幕の整備、乗務員の訓練が行われていました。子系統のうち、新横浜駅から太尾新道経由新羽駅間のバスは運行本数が極端に少なく、乗りにくい路線となっています。路線内に難読バス停の多い路線です。 2000年3月に、下町会館前経由という路線が設定されました。これは中山駅前～新横浜駅前線のみが経由する路線です。						
42	一の瀬	末吉橋、三ッ池道、鶴見駅、鶴見区役所前	汐入町2丁目	鶴見 港北		DC	平日のみ(16時台まで)の運行
	一の瀬	末吉橋、三ッ池道、鶴見駅、汐鶴橋	汐入町2丁目	鶴見 港北		DC	平日最終便及び土曜日、休日の運行
42系統解説	18系統と同様に鶴見駅東口を途中経由地とする路線です。一の瀬から末吉橋、三ッ池道を経て鶴見駅へ出ます。ここまでは13系統と同じルートです。そこから日中は鶴見区役所を通り、産業道路との交差点である汐入町2丁目が終点となります。以前は1時間に2本程度の運行頻度だったのですが、最近では1時間に1本程度の運行となりました。路線の性格としては13系統と15、16系統の補充路線といったところです。						
43							

43系統 解説	43系統は大別すると						
	<ul style="list-style-type: none"> ・中山駅北口～市が尾駅 ・中山駅北口～市が尾駅～桐蔭学園 ・中山駅北口～市が尾駅～桐蔭学園入口～鴨志田団地～寺家町(循環) ・市が尾駅～桐蔭学園入口～鴨志田団地～こどもの国入口～奈良北団地折返場 <p>の4からなる路線(子系統はそれよりも多数ありました)でしたが、2006年3月16日に東急バスへ移譲(運行事業者の変更)が行われ、市営バスとしては廃止となりました。これにより、市が尾駅より西側(市が尾駅～桐蔭学園、鴨志田団地、寺家町～すみよし台)への市営バス路線は消滅しました。元々は中山駅から桐蔭学園の先、横浜市と川崎市の境になる鉄町までの運行でした。路線としての歴史は結構長い物だったのですが路線は全て東急バスとなりました。</p>						
44	横浜駅西口	三ツ沢総合グランド入口、東泉寺前、八反橋、天屋	横浜駅西口	浅間町	相鉄	B	共通定期券取扱区間は横浜駅西口～東泉寺前間
44系統 解説	横浜駅西口から出る循環バスの一つです。もっとも、循環といっても途中の三枚町から八反橋を中心にしゃもじ状に循環する循環線です。午前と午後で循環方向が違います。横浜駅西口から岡野町、三ツ沢総合グランド入口、片倉町入口、三枚町を経て天屋、八反橋、東泉寺を回り、三枚町に戻ってきて同じ経路に横浜駅西口に戻ります。原則として循環線ですが、終バス(とその1本前)は八反橋止まりとなります。						
45	京急ニュータウン	日限山、上永谷駅、天谷、清水橋、港南台駅前	洋光台駅前	港南		C	上永谷駅発循環線を含めて上永谷駅～みやのくぼ間は頻度A
	上永谷駅前	天谷、清水橋、港南台駅前	洋光台駅前	港南		B	みやのくぼ～港南台駅前間は頻度B 港南台駅前～洋光台駅前間は頻度C
	野庭中央公園	天谷、清水橋、港南台駅前	洋光台駅前	港南		IC	上永谷駅～京急ニュータウン間は頻度C
	上永谷駅	ゆりの木通り、野庭団地センター前、野庭中央公園、すずかけ通	上永谷駅	港南		MC EC	午前中は野庭団地センター先回り、 午後はずずかけ通先回り
	上永谷駅	ゆりの木通り、すずかけ通	野庭中央公園	港南		IC	
	平戸	上永谷駅前、丸山台、清水橋	港南台駅	港南		MC	平日朝のみ1往復運行
45系統 解説	上永谷駅、野庭団地を中心とする路線バスです。洋光台駅から乗ると南公園を通り、港南台駅前、清水橋を通ります。その後は野庭団地を抜けて上永谷駅前に行きます。上永谷駅でUターンしたバスは日限山(ひぎりやま)を通り、京急ニュータウンに行きます。平日の朝方1往復のみ、港南台駅前から丸山台、上永谷駅前を通り平戸に抜けるバスがあります。以前は芹ヶ谷まで足を伸ばしていましたが、芹ヶ谷地区の路線移譲に伴い平戸折返しとなりました。						
46	東神奈川駅前	千若町1丁目、千若町2丁目	瑞穂棧橋 (瑞穂岸壁)	鶴見		MC EC	土休日・年末年始運休 東神奈川駅前発は朝のみ運行 瑞穂棧橋へ入るためには基地発行のバスが必要

46系統 解説	東神奈川駅(東口)からまっすぐ海の方に向かうバス路線です。途中に3つバス停がありますが、途中で乗り降りする人はまずいません。このバスの最大の特徴は終点にあります。瑞穂(みずほ)棧橋という場所です。その周辺を瑞穂ふ頭といいますが、ここは米軍のふ頭です。中に入るにはパス及び許可書が必要になります。瑞穂棧橋ではバスの到着にあわせて守衛さんがバス停まで出てきて降りてくるお客一人一人のパスをチェックしていきます。パスのない人は基地の入口で降ろされてしまいます。なお、瑞穂棧橋の先も路線があるようで、資料によっては瑞穂岸壁と言うところが終点になっているものがあります。この路線、米軍基地内を走ることから年に一回、ハワイの米軍司令部に対して交通局長名で基地内の走行許可申請を行っているそうです。 現在、東神奈川駅からは平日朝2本のみの運行となっています。瑞穂棧橋からは平日朝2本と夕1本の運行になっています。						
47	保土ヶ谷車庫前	洪福寺、藤棚、西前町(西区総合庁舎)、野毛坂	桜木町駅前	保土ヶ谷		C	中型車使用多数
47系統 解説	以前は山下ふ頭から途中の水道道までを28系統と併走する路線で、保土ヶ谷営業所担当分の出入り路線としての性格が強かった路線ですが、28系統の短縮でメイン路線に格上げ(?)されました。保土ヶ谷車庫を出て洪福寺、尾張屋橋を渡り、浜松町へ。いったん保土ヶ谷駅方向に向かい、次の水道道で左折、更にその次の藤棚で左折、そして何とも一度浜松町に止まるという奇妙なルートを走る路線です(以前は藤棚の商店街を直進していました)。その先は西前町、戸部4丁目と道の狭いところを走り、日ノ出町1丁目、桜木町駅に向かいます。2007年1月中旬までは冒頭にあるとおり山下ふ頭まで路線がありました。短						
48	横浜駅前	神奈川公園前	中央市場前	鶴見		C	休日・年末年始運休 一部中型車による運行
48系統 解説	46系統同様、運行距離の短い路線です。中央市場発は途中のバス停は「神奈川公園前」しかありません。この路線はもともとは路面電車の路線でした。旧横浜市電の7系統です。旧7系統は横浜駅からではなく、磯子区の八幡橋から久保山を経て横浜駅、中央市場を結ぶ路線でした。八幡橋から横浜駅間は現在の102系統に相当します。市場にあわせて休日や年末年始は運休、また終車も18時くらいと早いものです。						
49	横浜駅前	(臨時便・急行)桜木町駅前	大棧橋	浅間町 本牧		C	不定期運行
49系統 解説	以前は鶴見駅西口から花月園競輪場を結ぶ臨時バスがこの系統を名乗っていましたが、数年前くらいから大棧橋への船舶乗船客(無料)送迎バスとなりました。常に運行されているわけではなく、主要な船舶が到着したときのみ運行のようです。なお、横浜駅は東口バスターミナル5番(102系統発車バス停)から発車します。						
50	横浜駅西口	反町、栗田谷、神大寺入口、三ツ沢西町、三ツ沢 グランド	横浜駅西口	浅間町 保土ヶ谷		C	一方循環 横浜駅西口～神大寺入口間は頻度 B
	横浜駅西口	青木橋、反町、栗田谷	神大寺入口	浅間町 保土ヶ谷		B	深夜バス運行
50系統 解説	35系統の逆回りの循環バスです。横浜駅西口を出て、青木橋から反町へ。反町を左折し、東横線の反町駅前を通り、栗田谷に入ります。三ツ沢墓地のすぐ脇が神大寺入口。半数以上の便がここで終点となり、折り返しは35系統となり横浜駅西口に帰ります。循環便は直進し、片倉町入口、三ツ沢グランド、浅間下、岡野町を経て横浜駅西口に戻ります。ちなみに片倉町入口を出るとこの系統と(35系統も同様になります)は国道1号線をまたぐ陸橋を渡らず、交差点でクロスし、陸橋部分にある峰沢入口、三ツ沢西町の両バス停に停車します。						
51	上大岡駅前	港南区総合庁舎前、日野橋、すすかけ通	野庭中央公園	港南		A	深夜バス運行
51系統 解説	野庭団地と上大岡駅を結ぶドル箱路線です。日中でも頻度よく運行されています。路線は上大岡駅を出て、港南区総合庁舎、日野公園墓地を通り、日野中央公園入口の前で鎌倉街道から別れます。野庭団地の中をぐるりと回り、野庭団地センターの方から野庭中央公園に入ります。						
52	上大岡駅前	港南区総合庁舎前、日野橋、野庭団地東口	野庭中央公園	港南		C	平日、休日の朝方のみ運行 土曜日、年末年始は運休

52系統 解説	51系統の子系統的な存在の路線です。野庭団地の中を通らず野庭中央公園から野庭団地東口を經由して上大岡駅に向かいます。51系統は野庭団地を回ってくるため、公務員住宅前付近の乗客が乗り切れない場合もあるようです。その救済も兼ねた路線となっているようです。野庭営業所時代は203系統の出入り便としての設定が多かったですが、203系統が移譲対象路線となったため2005年7月のダイヤ改正で大幅に減便され、平日と休日の朝方のみの運行となり土曜日は運休となりました。また、休日は1往復のみとなりました。野庭営業所は廃止されましたがその後もダイヤはほぼそのままの野庭中央公園発着と						
53	横浜駅西口	洪福寺、保土ヶ谷駅東口、北永田、児童遊園地	平和台折返場	浅間町		DC	日中から夕方にかけて運行
	保土ヶ谷駅東口	北永田、児童遊園地、狩場町	平和台折返場	浅間町		B	平日は終日運行あり 土休日は朝方、夜間のみ運行 (頻度は平日の横浜駅西口発着便を含めたもので、土休日は朝夕B、日中C)
53系統 解説	相鉄バス旭3系統(横浜駅西口・保土ヶ谷駅東口～児童遊園地)を引き継ぐ形で平成2003年11月1日から運行を開始しました。新路線は児童遊園地の先、平和台折返場までの運行となります。運行スタイルは相鉄バスを継承して朝と夜は保土ヶ谷駅東口発着で、横浜駅西口には日中から夕方にかけて乗り入れるようになっています。横浜駅西口は発着とも第2バスターミナルとなっており、横浜駅西口発は北幸2丁目バス停を通過して楠町に出ます(横浜駅西口行は楠町から横浜駅西口第2バスターミナルへ直行し、鶴屋町3丁目は経由しません)。以前は上大岡駅から上永谷駅、平戸を経て戸塚駅に行く路線が53系統でしたが、こちらは平成10年1月に廃止になりました。						
54	根岸駅前	本牧市民公園前、本牧ポートハイツ前、小港、元町、薩摩町中区役所前、日本大通り駅県庁前	桜木町駅前	本牧		DC	日中のみ運行
	根岸駅前	本牧市民公園前、本牧ポートハイツ前、小港、本牧原、間門	根岸駅前	本牧		C	一方循環
	根岸駅前	本牧市民公園前、日産工場前	海づり棧橋	本牧		C	
	根岸駅前	日赤病院前、本牧市民公園前	本牧車庫前	本牧		B	
	根岸駅前	(急行・日産工場前)	本牧車庫前	本牧		MC EC	平日・土曜朝夕のみ運行
	根岸駅前	(急行・本牧市民公園前)	日産工場前	本牧		MA EA	
54系統 解説	本牧の埋め立て地と根岸駅を結ぶ路線というイメージが強かった路線です。ここ20年くらいで多少変化しました。まずは小港で右折の上本牧通りを麦田町、元町、横浜スタジアムへ抜け、中区役所のある薩摩町、日本大通り駅県庁前を経て桜木町駅に行く系統が出来ました。そして、平成9年の変更ではふ頭循環の外回り線を126系統に改称し(マイカル本牧方面に行く乗客の誤乗防止のためでしょうか?)、かもめ町付近を97系統と分割しました。このような変化はありましたが、現在でも本牧ふ頭周辺を中心路線であることは変わりません。平日の朝夕には日産本牧工場への足として急行便もあります。						
	青葉台駅	十日市場駅、中丸入口、長津田南	若葉台中央	若葉台		C	

55	ヴィンテージ前	長津田南、中丸入口、十日市場駅	青葉台駅	若葉台		C	始発から9時前までのヴィンテージ前発のみ 十日市場駅止は平日のみ運行
55系統解説	かつては桜木町駅から市電保存館へ行く21系統のグループの1つでしたが、21系統に統合され、系統番号は青葉台 - 若葉台地区に再利用されました。青葉台駅を出たバスは青葉台営業所、十日市場駅を經由し、若葉台方面に進みます。ひたすら直進し、長津田南で左折し、若葉台中央へ向かいます。元々は若葉台中央ではなく若葉台営業所近くに「旭中央病院」という別の終点バス停を設け、青葉台方面からのバスのみ「旭中央病院」が終点となっていました。沿線に北部斎場があり、そこへの足でもあることから若葉台中央への乗り入れ要請(三ツ境、鶴ヶ峰方面からの乗り換えの便がよくなるため)が強く、2006年3月18日から起終点が若葉台中央に変更となりました。なお、青葉台方面行きは始発から9時前に限り若葉台中央の一つ先のヴィンテージ前が始発となります。ヴィンテージ(「ヴィンテージ・ヴィラ横浜」という高齢者を対象としたマンションだそうです)からの着席を確保させるためだとか。若葉台中央行は終日若葉台中						
56	鴨居駅前	鴨居町、竹山団地中央	竹山団地折返場	緑	神奈中	A	深夜バス運行 頻度は神奈中を含む
56系統解説	鴨居駅と竹山団地を結ぶ短いながらも乗客の多い路線です。鴨居駅の狭いバスターミナルを出て、梅の木方向に進みます。途中の竹山団地入口で右折し、団地内に入ります。終点は竹山団地折返場です。通常便は全てここで折り返しますが、深夜バスだけはこの先の道を進み、笹山団地(一般の56系統としては走っていない区間です)に向かいます。						
57	浅間町車庫前	岡野町、西区総合庁舎、上原、日ノ出町1丁目、桜木町駅前、けいゆう病院	パシフィコ横浜	浅間町		DC	日中のみ運行 年末年始運休
57系統解説	浅間町車庫から西区内をぐるぐると回りパシフィコ横浜に向かう路線です。この路線になるまでには区間、担当営業所がころころと変わりました。もともとは横浜駅東口(古くは西区発もあったようです)から御所山、伊勢佐木町を經由し、山下ふ頭入口を結ぶ路線(担当:本牧)でした。その後、保土ヶ谷車庫発になり、保土ヶ谷車庫から浜松町、藤棚、御所山経由の山下ふ頭行き(担当:保土ヶ谷、朝山下ふ頭行き2本、夕方保土ヶ谷車庫行き2本)となりました。さらに、現在の路線のルートとなる保土ヶ谷車庫からの岡野町、西区総合庁舎入口、伊勢佐木町経由吉田橋循環線が出来ました(担当:保土ヶ谷)。それが平成10年に浅間町車庫発のパシフィコ横浜行きとなり、担当も浅間町営業所に変更となりました。						
58	磯子車庫前	根岸駅前、和田山口、見晴橋、日本大通り駅県庁前、桜木町駅前	横浜駅前	磯子本牧		B	リフト車運行
	磯子車庫前	根岸駅前、間門、和田山口、小港橋	みなと赤十字病院	磯子		DC	平日日中のみ運行 リフト車運行
58系統解説	8系統と同様に歴史のある路線です。かつて、路面電車は長らく間門～八幡橋間が空白路線となっていました。また、本牧通りより海側には路線がなく、その区間を埋める形で運行されたのが現在の58系統に当たる路線です。横浜駅から桜木町駅、日本大通り駅県庁前、中華街入口、みなと赤十字病院入口、小港、本牧、間門、根岸駅前、八幡橋、芦名橋、磯子駅前を経て磯子車庫前まで行きます。市内の観光地を結ぶ路線の一つでもあります。2005年4月から磯子車庫前～みなと赤十字病院間の区間便が平日日中に限り運行を開始しました。						
59	横浜駅西口	東神奈川駅西口、西大口、菊名駅前	綱島駅前	浅間町		C	
59系統解説	かつては東急バスと相互乗り入れをしていた路線です。以前は港北営業所の所管で、東急バス、市営バスともいすゞ車の走る路線でした。また、綱島駅から港北車庫、新横浜駅への出入り線や横浜駅西口から新横浜駅を結ぶ路線(旧、80系統)とバラエティーに富んだ路線だったのですが、現在では担当が浅間町となり、綱島駅～新横浜駅線及び旧80系統が廃止となり、大変シンプルな路線となりました。横浜駅西口を出て、東神奈川駅西口を経て浦島丘で左折。綱島街道に入り、西大口、港北小学校、菊名駅前、港北区総合庁舎前を經由し、大綱橋を渡り綱島駅前に着きます。						
60	磯子車庫前	山王谷、笹塚、弘明寺、通町1丁目、南区役所前	磯子車庫前	滝頭		C	一方循環

60系統 解説	磯子駅を出て芦名橋方向に向かうバスは多くは駅前の交差点で左折し、国道16号線に入りますが、この系統のみ産業道路を直進します。磯子センターで左折、芦名橋では国道16号線をクロスし、裏通りの山道を登っていきます。(旧)磯子プリンスホテルの脇をかすめて浜小学校前へ。その先仲久保で左折して9系統と合流します。弘明寺に出た後一路鎌倉街道を直進し、南区役所でUターンして磯子駅方向に戻る循環線です。かつては9系統と同様に保土ヶ谷駅東口、さらには藤棚まで行っていました。順次短縮され現在の路線となりました。
------------	---